



●市民に信頼される病院を目指して——瀬戸内市民病院●

救急搬入台数は今年の1.8倍 機能集約で7,700万円の経営改善効果

瀬戸内市民病院では、「市民に信頼される病院を目指して」を理念に、①医療の質の向上 ②安全・安心な医療 ③やさしさのある医療を基本方針に掲げ、業務に取り組んでいます。

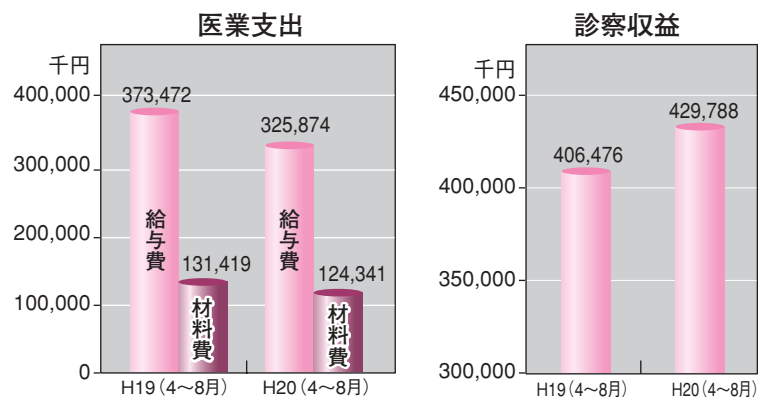
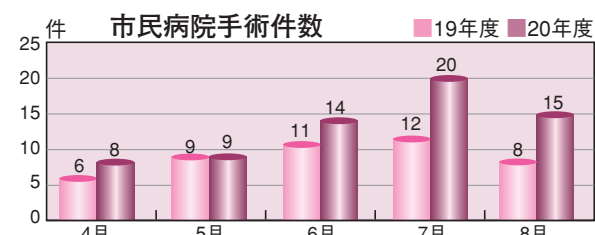
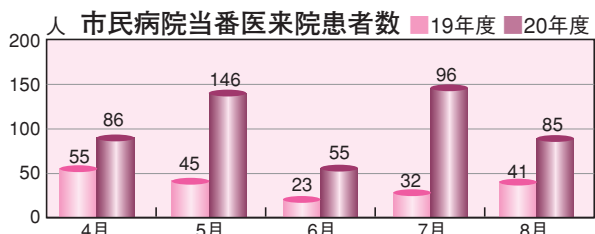
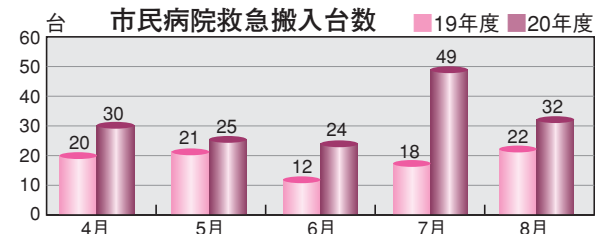
今年4月からは、本院に病院機能を集約し、経営の改善に取り組んでいます。本院に医師8人が集まったことで、救急の受け入れや当番医、手術もスムーズに実施できるようになりました。

4月から8月までの5カ月間を昨年と比較すると、救急搬入台数は1.8倍、当番医来院患者数は2.5倍、手術件数は1.3倍といずれも増加しています。

また、入院患者数も4月から8月までの5カ月の1日の平均入院患者数は79人で、ピークでは92人が入院され、昨年の牛窓分院と本院の入院患者数の合計と今年の本院の数を比較しても、昨年に比べ約5%増えています。

●財務状況

4月から8月までの5カ月の市民病院の財務状況をお知らせします。収入は、入院と外来を合わせた診療収益が、昨年と比較して約2,300万円（約5%）の増。支出は、給与費が約4,700万円（約13%）減、材料費が約700万円（約5%）減となっていて、病院機能を集約したことにより、約7,700万円の経営改善の効果が出てきています。



瀬戸内きらり館の名付け親
川崎三希江さん（72歳・邑久町尾張）

「瀬戸内海をキラキラ輝く波のように、瀬戸内市内外に町の良さが広がってほしい」という思いを込めて名付けました。

以前、牛窓東小学校に勤務し、美しい海やそこに浮かぶ島々を見ていました。その景色が好きで、ぜひこの景色の美しさを、全国にアピールしてほしいと思います。

キラキラ輝く波のように
町の良さを全国に広げてほしい

10月1日にオープンを記念し式典開催
10月1日のオープン当日は、館の完成を記念して、関係者約40人出席のもと、竣工記念式典が行われました。

「瀬戸内きらり館」の愛称を記した看板の除幕に続き、立岡脩二市長が「観光センターを拠点に、積極的に市の観光振興と地域の活性化を図っていきたい」とあいさつ。その後、「瀬戸内きらり館」の愛称



を考えた川崎三希江さん（72歳・邑久町尾張）に、記念品が贈られました。

関係者が出席し行われた竣工記念式典



瀬戸内市観光協会会長
石田一成さん（53歳・牛窓町牛窓）

地元の人と観光客が交流できるような人が集う場所として、多くの皆さんに瀬戸内きらり館を利用させていただきたいと思います。

瀬戸内市には、全国に発信できるような素晴らしいものがたくさんあります。歴史を再発見しながら現代風にアレンジし、上手にPRしていこうと思っています。

人の集う場所として
多くの皆さんに利用してほしい

魅力を全国に発信しよう
この瀬戸内きらり館は、市全体の観光情報の提供や特産品販売などを行う、本市の観光拠点です。ここから、素晴らしい景色や歴史ある町並みなど本市の魅力や、全国に伝えてほしいと思います。また、この館が住民と観光客が集える場所となり温かく触れ合うことで、本市を訪れた皆さんの心に残る思い出となることでしょう。

瀬戸内きらり館

瀬戸内市牛窓町牛窓 3031 - 2

☎ 0869 - 34 - 5250

FAX 0869 - 34 - 9501

開館時間：午前8時30分～午後5時

休館日：毎週火曜日(祝日の場合は、翌日が休館日。ただし7・8月の観光シーズンは休みなし)